

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,980	t-CO <sub>2</sub>
① （温 室除 酸効 く 化果 炭ガ 素排 換算 排出 量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		3,980

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度		令和9年度	
			目標排出量		目標削減率	
温室効果ガス 総排出量	3,980	t-CO <sub>2</sub>	3,920	t-CO <sub>2</sub>	1.5	%

項 目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度		令和9年度	
			目標排出量		目標削減率	
原単位当たりの 排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>		%

（2）目標設定の考え方

温室効果ガスを1年間に0.5%ずつ、3年間で1.5%削減する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
一般管理/エネルギー使用量の把握及び管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー使用量の把握・計測・記録</li> </ul>	年度別製造販売計画から試算した温室効果ガス排出量増量予想から、毎年0.5パーセントずつ削減
省エネルギー・省資源の推進/照明など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不要な照明を消灯する。出入口の照明等、常時点灯が不要な物は人感センサータイプへ変更する</li> <li>・冷房運転を28℃に設定</li> <li>・動力モーター老朽品を適宜トップランナーへ更新</li> <li>・老朽冷凍機及びエアコン類の計画更新を進める</li> </ul>	老朽化冷凍機を高効率の最新冷凍機へ更新する（3台目標）老朽エアコンを高効率の最新エアコンへ更新する（5台目標）
省エネルギー・省資源の推進/その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓蒙活動として省エネポスターを社内に掲示</li> <li>・各部署の電気スイッチの横に節電シールを貼る</li> </ul>	社員の省エネ意識を高め具体的な行動を促す

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	<input type="text"/> %

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

- ・機械の定期メンテナンスにより動力の効率アップを計り電力消費を抑える
- ・両面コピー、裏紙利用などによる紙使用量の削減
- ・電子共有フォルダなどの利用によるペーパーレス化

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組